

[共同研究]

## グローバリゼーションと政治・経済・社会体制の変容に関する研究

共同研究者

代表 金田 耕 一(日本大学経済学部教授)

池 本 修 一(日本大学経済学部教授)

小笠原 祐子(日本大学経済学部教授)

根本 志保子(日本大学経済学部専任講師)

### はしがき

本研究グループは、日本大学経済学部経済科学研究所共同研究プロジェクトとして、「グローバリゼーションと政治・経済・社会体制の変容に関する研究」と題して、経済活動のグローバリゼーションに連動して進行しつつある諸問題について、それぞれの専門領域(政治理論・労働社会学・環境経済学・比較体制論)から研究した。以下の4編の論文は、その成果の一部をまとめたものである。

金田論文「グローバリゼーションとナショナル・アイデンティティ」は、イギリスの多文化社会の背景と現状にふれながら、政治と経済、リベラルな統合とマルチカルチュラルな共存のあいだで揺れ動くイギリスの移民政策を検討したものである。特に、リベラルな統合論に対して、エスニック・アイデンティティに基づく共存の政治の理論に注目し、グローバリゼーションがもたらすであろう帰属意識やアイデンティティをめぐる政治(政策)の必要を示唆している。

根本論文「グローバリゼーションと環境問題」は、グローバリゼーションのもとで途上国で発生している労働・環境問題を中心にして、特に一次産品をめぐる途上国の経済的状況と国際社会の対応が紹介されている。そのうえで、生産者の労働条件の改善や環境への配慮を目的とするフェア・トレードが果たしうる役割とその課題について検討したものである。

小笠原論文“Globalization and the Future of Work”は、グローバリゼーションが労働の将来に与える影響について考察している。情報通信革命の進展と企業活動のグローバリゼーションによって広がりつつある新しい労働形態を整理し、そのインプリケーションを検討したものである。これらの新しい労働形態は、キャリア及びライフ・デザインの選択肢の増加をもたらす一方で、雇用の不安定化、長時間化、低賃金化に拍車をかける懸念があるとして、柔軟性とセキュリティの二者択一ではない、両者のバランスのとれた政策立案の重要性を示している。

池本論文“Globalization and Japanese Investment in the Czech Republic”は、グローバリゼーションのもとでの海外直接投資のインパクトについて、1989年の東欧革命以後のチェコ経済を例にして論じている。1998年以後の国有企業の外国資本売却・民営化によって企業改革が大幅に進展したことを実証的に分析している。また近年のチェコへの日系企業の進出をとりあげ、とりわけ技術移転の側面からみたととき、日本的生産方式への東欧諸国の適応がもつ意味を現地調査をもとにして検討している。

(金田耕一稿)